

令和2年度第2回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和3年3月19日（金） 19時00分から20時40分まで
2. 場 所 市民交流棟 2階会議室
3. 出席者 (委員) 前田 眞、青木 ルリ、宮崎 憲士、石川 弘幸、山川 和子、福濱 りか  
横内 博之、立花 宏司  
(事務局) 地域振興課長 細川 哲郎、  
鈴木 健生、西岡 範彦、井原 広一  
ボランティア市民活動センター 所長 藤原 雅秀
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容

【協議会】

1. 開会
2. 議事
  - (1) ボランティア市民活動センター令和2年度事業報告について 【資料①】
  - (2) 第3次ボランティア市民活動推進計画の進捗状況について 【資料②】
  - (3) コロナ禍におけるボランティア市民活動の変化について 【資料③】
  - (4) ボランティア市民活動推進協議会委員の任期について 【資料④】
  - (5) その他
3. 閉会

6. 会議録

発言者	発言内容
課長	<p><b>【協議会】</b></p> <p>只今より令和2年度第2回ボランティア市民活動推進協議会を開会する。</p> <p>開会</p>
	<p><b>2. 議事</b></p> <p><b>(1) ボランティア市民活動センター令和2年度事業報告について</b></p>
会長	説明を事務局より願います。
事務局	委員の皆さんに意見を頂戴しながら来年度の計画に反映したい。 〔資料①及びPC内データを基に事業報告〕
会長	コロナ禍でありながら多彩な活動をしてきている印象を受けた。 委員から意見はないか。
委員	<p>(ボランティア学習について)</p> <p>学校の総合的な学習において、車いす利用者への配慮や気をつける点などについて教えている。車いすを押したことがある児童はいないが、ショッピングカートは全員が押したことがある。扱い方は一緒だが、車いすには人が乗っているので怖い思いをさせてはいけない。声かけや相手の望んでいることを意識して行動しなければならないと教えている。</p> <p>学習後の児童の変化としては、校舎内に以前あったスロープがないことに児童が気づき、必要性を訴えていたことが印象深かった。ボランティア意識が芽生えてきたと感じた。</p>
委員	<p>(ボランティア市民活動交流会について)</p> <p>交流会内で行ったゲームが難しく途中で挫折しそうになったが、交流が深められたので良かった。今後も趣向を凝らした取り組みに期待している。</p>
委員	<p>(企業ボランティアの推進について)</p> <p>シトラスリボンプロジェクトも初めのうちはプロジェクトのお知らせから始まったが、今では周りからお声かけいただいて活動している状況にある。</p> <p>この運動が自分の中にあるかもしれない差別心に気づいてもらうきっかけになってくれるとうれしい。</p> <p>デイサービス事業所にも初めて訪問する予定になっている。</p>
委員	<p>(ボランティア市民活動センターのプロモーションについて)</p> <p>社宅にボラ7通信が回覧されてくるので拝見すると、高校生がボランティアに関わっていることに好印象を受けた。市民の皆さんのボランティア意識も高まってくると思う。</p>

委員 ボラ7が主催した「しこちゅ〜すまいるフェスティバル」に子ども達と一緒に参加させてもらった。

小さな子ども達は高校生くらいのお兄ちゃんお姉ちゃんと接する機会があまりないので、大喜びでボーリングや輪投げをしていた。

大きなイベントの運営を高校生に任せるのは勇気がいることだと思うが、ボランティアセンターとボラ7は普段からの意思疎通がとれているのが見てとれた。

会長 高校生も自分達で実施することで達成感を感じ、次へのモチベーションになる。また、大人との関りの中で成長することができているように思えた。

委員 (企業ボランティアの推進について)

小学校でコミュニティスクールを実施しているが、今在籍しているメンバーは高齢者が多い。一生懸命になって接してくれているが、小学生達の体力についていくのが負担になっていることもあるので、企業の強みである若い人材を取り込めることができれば大きな力になると思う。

会長 ボランティア活動を行うことで、企業の価値やメリットも示しながら得意分野を地域に生かすことができれば、多くの企業に賛同が得られるような気がする。

会長 コロナ禍であっても研修会の開催方法をリモートにするなど工夫されて実施できているのは良いこと。リモートだと県外や地域外の方でも参加しやすくなるのがメリットである。また、ケーブルテレビでのリピート放送やYouTube 配信を行っているのは多くの人の目に届くようになるので、今後も積極的に活用出来たらいいと思う。

## (2) 第3次ボランティア市民活動推進計画の進捗状況について

会長 説明を事務局より願います。

事務局 [資料②を基に計画の進捗状況を報告]

会長 企業もボランティアについて何をやればいいのか分からないことが多いので、自発的な活動が始められるのを待つのではなく、他の企業の取り組み事例についてヒントを出したりお願いしたりすることも必要になる。

委員 ボランティアのニーズが一目で分かりやすいようなものが必要だと思う。自分達のボランティアだけでなく他のボランティアにも目を向ける機会があればうれしい。何か協力できることがあるかもしれない。

会長 ボランティア活動に熱心な企業は情報に飢えているように思う。商工会議所に協力して広報するなど、企業が活動方法を知る機会を創り出していくと、登録数やマッチング数も自然と増えてくる。

委員 企業のボランティア活動に家族で参加することについてはどうか。転勤などした人でもその地域でのつながりが生まれてくると思うのだが。

会長 企業のボランティア活動に家族が参加するのはよくあること。  
そうした形で活動が広がり、ネットワークができることで孤立しない地域が  
つくれる。

委員 企業ボランティア登録をしている立場からすると、依頼がきたら断る理由はない。  
依頼内容が難しいこともあるが、どのようにすれば依頼主の役に立てるかを  
考えて活動させてもらうことで、企業側の活動の幅も広がるので情報の提供を求  
めている。

委員 ボランティアをしたい人もされたい人もどこに聞けばいいのか分からず、もど  
かしい気持ちが伝わってくる。ボランティアセンターが中心で担ってくれると思  
うので、知ってもらうためにも情報の発信を推進することは大事だと思う。

会長 どちらの立場の人も構えなくても相談できる場所であるのが望ましい。  
ボランティアセンターに任せるだけでなく、周りの応援団も含めて頑張れて行  
けたらいいと思う。

### (3) コロナ禍におけるボランティア市民活動の変化について

会長 説明を事務局よりお願いします。

[資料③及び PC 内データを基に市民活動の事例を報告]

委員 コロナ禍だからこそ、YouTube を活用した事業というのが生まれたと思う。  
コロナが落ち着いた後もスタンダードになってくるはずで、地方からでも面白  
い仕掛けができる時代になっている。  
SNS の活用はデータベースで残っているといつでも見えるので、活用を進めて  
ほしい。

会長 オンラインで実施することによって、エリア限定ではなくなってきた。  
対面とオンラインを組み合わせることで、情報発信力を上げる効果がでてくる  
と思う。

### (4) ボランティア市民活動推進協議会委員の任期について

会長 説明を事務局よりお願いします。

事務局 [資料④を基に任期について説明]

委員 活動してきて思うことは、ボランティアの気持ちでしてきたというより、自分の  
してきたことがボランティアに繋がっていたことが多かった。

### (5) その他

会長	その他、委員から報告事項等はないか。
委員	コロナ禍で活動を再開するのは非常にためらいがあったが、毎年開催している保育園での音楽イベントを先日開催したら、子ども達が本当に喜んでくれた。 その笑顔を見ると、ためらっていた時間が惜しかったと感じた。 コロナ対策について、分かりやすいガイドラインなどがあればより安心して開催できると思う。
会長	福祉や保健などの専門家の考えを踏まえながらガイドラインが作成されると活動の再開にもつながると思う。対策については納得してもらえないと参加してもらえないので、色々な知恵が集まるといいと思う。  本日の議事は全て終了したので進行を司会へ戻す。
課長	これをもって、令和2年度第2回ボランティア市民活動推進協議会を閉会する。  閉会